

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 : 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。
だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。 (マタイによる福音書 6章26節)

保育目標 : 0歳児 ・保育者に見守られる中で、周りのものや人に興味を持ち関わろうとする。
1歳児 ・自分の周りの様子に気付いて、関わろうとする。
2歳児 ・感じたことをことばで表そうとし、共感してもらえる喜びを味わう。
3歳児 ・水・泥・自然に触れることを楽しみ、様々な体験をする。
4歳児 ・興味を持ったことを繰り返し楽しむ。神さまからいただいた身体を大切にする。
5歳児 ・友だちとの関わりの中でやり直すことや仲直りする経験をする。
・神さまからいただいた身体を大切にする。

新入・進級して2か月が経とうとしています。少しずつ新しい環境に、子どもたちも慣れてきた姿がみられます。

六浦こども園出会いの日には、子どもたちだけでなく保護者の方も新しい出会いや親睦を深める機会となるよう、ゲームやスキンシップ、またお子さんとの時間が豊かになるよう先生たちは工夫をして行いました。様々な事象・人・物等を理解していくには、「知る」ことから始まります。子どもたちは日々の園生活を通して、沢山の事に出会い、心が動かされ、「やってみたい!」と思い取り組んでいます。それは、人それぞれ違います。先日の子育て講演会でのお話しの中で、「子どもは自分がどう育ちたいか知っている。それが、あそびに表れる。」とおっしゃっていました。そして、その子の「あそび」には意味があり、「あそぶ」時間は、子どもにとって自分の人生を自分で決めて良い時間でもあると。こども園の自由活動の時間は、まさに子どもたちが自分で「あそび」を決めて過ごしています。先生たちも、子どもたちの遊びが豊かになるよう環境を設定していますが、子どもから発信して始まる「あそび」もあります。例えば、大雨が降った後にできた園庭の大きな水たまり。大人にとっては、悩ましい…ですが、子どもにとっては、「ワクワク感が止まらない」ほど魅力的な水たまり。案の定、パラパラと雨が降っている中でもその水たまりを見ると、目をキラキラさせながら嬉しそうに素足で入って遊び始めました。屋根はあり自分たちでさじ加減していましたが…楽しさはどんどん増し、興奮しながら遊んでいました。この遊びを、講師の嶋村先生がお話しされていた、「生活のレンズ」で見たら、風邪ひくから止めよう・洋服が濡れてしまう・洗濯物が…お部屋で遊ぼう等といった見方になるでしょう。しかし、「遊びのレンズ」で見ると、足で感じる水の温度・泥水の感触・ピチャピチャする音や水のはね等を子どもたちは感じているのかなといった子どもの立場からみたレンズになるでしょう。他にも、医学の立場から見たレンズ・教育の立場から見たレンズがありますが、どのレンズで「あそび」を見るかによって大人の関わり方は変わってきます。その「あそび」がその子にとって必要であれば、二者択一(止める?止めない?)ではない方法を模索しながら、どのようにしたら実現出来るか私たち大人はいつも考えながら関わっていくことが大切です。先ほどの水たまりでの遊びは、ある程度満足すると自ら片をつけ、終えていきました。水たまりで遊んだ子どもたちは、きっと何かを感じ「知り」、「理解」したのではないのでしょうか。様々な経験を積み重ねていくことで、学び、成長していきます。嶋村先生の「遊びのレンズ」で、子どもたちの遊びを見るときっと大人の私たちにも新たな発見や気づきがあるのではないのでしょうか。そして見方が変われば大人の「こころもち」にも変化があらわれることでしょう。是非、一緒に「遊びのレンズ」で子どもの遊びをみていきましょう。

来月は、年長組さんのお泊り会を予定しています。4・5月と過ごしてきてまだまだともだちとの関係作りの過程だと思えます。お泊り会に向けてこれから子どもたちが色々なことを決めていく中で、相手を知っていくことでしょう。そしてさらに、関係が深まっていきクラスの絆も強くなっていくと思えます。子どもたちの思いが叶うお泊り会となりますように、そして全てが守られますようにとお祈りしています。

副園長 松下 成美